

# REALs NEWS



2020 年秋号

P2

## 特集:REALs へ組織名を変更

P3-7 現在の各国活動報告

P3 新型コロナウイルス感染症対策支援 / P4 ケニア / P5 南スーダン / P6 ソマリア /

P7 トルコ

P8 ご支援・ご協力のお礼 / REALs からのお知らせ



ケニアで2007年に発生した暴動で避難民となった親子。荷物を抱え避難先にたどり着き、つかの間の休息を取る

©Yasuyoshi CHIBA

## REALs (Reach Alternatives)

## へ組織名を変更

## より多くの人に、争わず生きる選択肢を届ける

今年3月、組織名称を JCCP（日本紛争予防センター）から、REALs（Reach Alternatives）に変更しました。2年ほど前から、理事会と事務局で、変わりゆく世界の中で私たちはどのような社会を実現したいのか、そのなかでどんな役割を担っていくのか、より効果的に成果を出すためには何が必要か、数多くの議論を重ねてきました。今も組織改革のプロセスは続いています。組織名・ロゴ、理念・ポリシーの見直しなど、ウェブサイトのリニューアルもその一環です。

「REALs (Reach Alternatives)」という名前には、争いを予防する方法、紛争地での生き方、参加する方法において、今までになかった選択肢（オルタナティブズ）を切り拓き、できる限り多くの人々がその選択肢に「リーチ」できるような役割を担うという意志が込められています。

## 理事長 瀬谷ルミ子ごあいさつ



日頃から私達の活動を応援頂きありがとうございます。

私が「JCCP」を初めて訪れたのは、2000年のこと（20年前！）。当時 JCCP は各界の専門家を講師にした1ヵ月間の紛争予防夏期講座を実施していて、私はその講座に選抜してもらったのだ。ちなみに、20代の若手だった講座の同期10名の多くが、今は国際機関や学術機関などで活躍しているので、人材育成の一翼を担った役割は大きかったと感じる。

月日は流れ、次の JCCP との関わりは2007年。経営破綻状態だった組織を立て直すため事務局長に就任することを当時の堂之協理事長（故人）から依頼されたのだ。当時の私は西アフリカの国連PKOで兵

争いを防ぎ、人と人が共存できる社会を作っていくための私たちの取り組みを、これからも共に進めて頂きますよう、お願いいたします。

なお、新たな組織名称、ロゴ、理念の言語化、広報媒体のデザインを含むリブランディング全般において、株式会社ライトパブリシティ様に多大なご協力を頂いています。私たちの内にある想いや目指すものを「表現する」「伝える」という形で共に世に生み出す力添えを頂いていることに改めて感謝いたします。

## ■組織ロゴ



■REALs のホームページが新しくなりました。ぜひご覧ください：新アドレス <https://reals.org>

士の武装解除を専門に働いていたが、日本が世界の平和により積極的な貢献ができるのではと感じていた。紛争地でもっと効果的な解決策に取り組めるのではとも。

それから13年。組織名が変わっても REALs が引き続き目指すのは、有事に劇的な救世主の到来をひたすら待ちわびるのではなく、お金を出すか、軍を出すか、非建設的な他者批判をするかの三択に終始するのでもない、新たな選択肢をつくること。命が失われてから嘆くよりも、未然に防ぐ道をつくる。争いの結果、命を落とした人たちが「また生まれてきたい」と思う社会を築く。紛争地にとっても日本にとっても「自分ごと」であるそんな社会づくりに、紛争地と日本の一人でも多くの人々が参加してもらえよう、引き続き頑張っていきます。

# 新型コロナウイルス 感染症対策支援

緊急支援

## REALs の活動地で、感染予防のための支援を行っています

REALs が活動する各国でも、新型コロナウイルスの感染が発生・拡大し、現地のロックダウンにより職員が自宅待機となったり、現地政府の方針で予定の活動が延期されるなど計画に遅れが生じています。それでも現地のスタッフは、私たちの活動を待つ人々に少しでも早く支援を届け、手遅れになる前に争いや危機を防ぐための取り組みを精一杯進めています。

### 南スーダン



南スーダンの感染者数は把握されているだけで2,499人（8月23日時点、WHO：世界保健機関）ですが、検査体制が整っていないため実際の感染者数はこれより多いと考えられています。

タンクはとても喜ばれ、受け取るとすぐに自分のものだと示すマークをつける人もいました

REALs が活動する首都ジュバのマンガテン国内避難民サイトには給水施設がなく手を洗うことも難しいなか、約11,000人が生活しています。REALsはこの全2,200世帯に対し、これまでに石けんや消毒液、給水タンク、蛇口つきのバケツなどの物資と、手洗い用の水、感染予防の方法などを伝えるリーフレットを配布しました。

### ケニア

ケニアでは32,118人（8月23日時点）の感染者が確認されています。

REALsはテロや争いを防ぐために活動するナイロビのスラムでこれまでに、住民200人にマスクと予防方法を伝えるポスターを配布するとともに、手洗い

用の水タンクをREALsが運営する心のケアを行うセラピールームや市場など12ヵ所に設置しました。さらに社会不安に付け込んで活動を活発化させる暴力的過激派組織の誘いに流されないよう、地域全体でテロを許さず、犯罪を警戒することをポスターに掲載しました。

### トルコ

REALsがシリア難民支援を行うトルコでは、257,032人（8月23日時点）の感染者が確認されており、現在も状況に応じた外出制限などが続いています。シリア難民の人々はトルコ語が分からないため、政府が発表する予防対策などの正しい情報が伝わりにくくなっています。このためREALsは、もともと行っていた難民向けの相談対応の仕組みを活用し、電

話や無料通信アプリを通じた新型コロナウイルスに関する最新情報、感染予防のアドバイス、生活上の問題の個別相談、カウンセリングを提供しています。新型コロナウイルス以外の相談を受けた際も、予防のための情報を積極的に伝えています。

※新型コロナウイルス対策支援は、皆様のご寄付を活用するとともに、南スーダン、トルコの活動はジャパン・プラットフォームの、ケニアの活動は外務省日本NGO連携無償資金協力の助成を受けて実施しています。

# ケニア

# Kenya

争い予防

心のケア

## 暴力的過激化予防：若者がテロや暴力に頼らず生きていけるように

ケニアでは首都ナイロビや沿岸部を中心に、ソマリアを拠点に活動するイスラム系武装勢力アル・シャバábによるテロ事件が後を絶ちません。ソマリア系の住民や難民が暮らす地域では、過激派組織や犯罪組織が経済的に貧しい若者を勧誘する事例が多く報告されています。



心理社会的コミュニティワーカーを育成する研修で、熱心に学ぶ若者たち

## TOPICS

### テロの被害を乗り越え、ピース・アンバサダーに

ネリー（仮名・右写真）はイースリー地区で起こったイスラム過激組織によるテロの被害に遭いました。トラウマを抱え、あらゆるイスラム教徒と、イスラム教徒に多いソマリ系住民を憎むようになっていました。しかしREALsが育成した心理社会的コミュニティワーカーとのカウンセリングを重ねるうち、徐々に気持ちが落ち着き、イスラム教徒やソマリ系住民＝テロリストだと思いつつもなくなり、ソマリア出身の同僚とも良好な関係を築けるようになりました。

やがてネリーは地域ボランティアにも登録し、テロの被害女性への支援活動に参加するようになりました。

そこで REALs はナイロビのイースリー地区で、若者の過激化を防ぐための活動を 2018 年から続けています。住民の若者たちの中から、特に同世代に心のケアを提供できる心理社会的コミュニティワーカーを育成し、テロの被害にあった若者や、テロ・犯罪組織に取り込まれてしまっている若者が相談できる場を作っています。2018 年の事業開始から今年 7 月末までに、REALs が育成した心理社会的コミュニティワーカーがのべ 950 人の相談に対応してきました。悩みや問題を悪化する前に見つけて解決したり、テロの被害者・加害者どちらにも社会復帰を促す心のケアを提供するなどしています。

また住民、行政、警察などと連携して地域全体で過激化を防ぐ仕組みづくりも行っています。宗教が違う住民同士の交流や、若者の雇用機会を増やすなど、住民主体で社会を不安定化させる課題を解決していけるよう行動計画を作り、取り組んでいける体制を作っています。

※この活動は、皆様のご寄付を活用するとともに外務省日本 NGO 連携無償資金協力の助成を受けて実施しています。

た。そして平和に貢献するピース・アンバサダーとしてして、自身の活動を通して、異なる民族や宗教の人々との共存の重要性、固定観念を持つことの危険性を訴えています。

テロの恐怖を乗り越えたネリーは「次は被害者とコミュニティの人々を自分が支援することが使命」と活動を続けています。



# 南スーダン

# South Sudan

争い予防

緊急支援

## 国内避難民サイトの水・衛生環境改善支援

南スーダンは 20 年にわたる独立戦争ののち、2011 年 7 月にスーダンから独立しました。しかしその後、国内での民族間の対立などから大きな武力衝突が起こり、多くの被害者や避難民が発生しました。

REALs は首都ジュバのマンガテン国内避難民サイトで昨年から活動を続けています。マンガテンは域内の民族関係が複雑なことから対立が生じやすく、

これまで多くの支援団体が活動を諦め撤退していました。そのような中 REALs は、紛争予防の知見を活かして住民間の争いを減らし、このサイト唯一の支援団体として活動を継続しています。現在は全く整っていない水・衛生環境の改善のため、石けんや給水タンク、蚊帳などの配布を行っています。

## サバクトビバッタ被害対策

今年に入り中東、アフリカなどで大発生しているサバクトビバッタは、南スーダンでも農業被害を起こしています。干ばつや内戦などの影響で今年 3 月の時点で人口の半数以上の 610 万人が早急な食糧支援を必要とする状態に陥っていたなか、さらなる食糧不足による紛争の激化が懸念されています。

REALs は 5 月からジュバ市内で農家約 750 世帯

を対象に、害虫対策と農業支援を行っています。これまでに、身の回りの素材を使った殺虫剤の作り方や使い方を伝える害虫被害対策研修と、害虫被害に地域全体でいち早く対応する仕組みづくりの研修の策定を進めています。争いの芽を早期に発見し対応するために REALs が培ってきた、早期警戒・早期対応のノウハウを取り入れています。

※これらの活動は、皆様のご寄付を活用するとともにジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施しています。

## 水・衛生環境改善のために、栗田工業株式会社様からご寄付

栗田工業株式会社（東京都中野区）様からご支援を頂き、マンガテン国内避難民サイトで、水と衛生の環境改善のためのプロジェクトを行っています。

昨年は、同社からご寄付を頂き、11,000 人（約 2,200 世帯）が住む同避難民サイト内で老朽化・破損が深刻だったトイレ・シャワー施設の修復と新たな手洗いの設置を行うことができました。

今年もご寄付頂いたことで、他のトイレの修復と井戸の修繕を実施できるようになりました。水・衛生環境を改善することで、健康被害や感染症を防いでいきます。また、トイレ・井戸を住民たち自身で管理し、長く使っていくためのメンテナンス研修や、限られた設備を争わず利用できるよう紛争予防のための研修も実施してい

ます。成果については今後ご報告させていただきます。



栗田工業株式会社様の支援で、マンガテン避難民サイトの住民から選んだメンバーに、紛争管理研修とリーダーシップに関する研修を行いました

# ソマリア

# Somalia

争い予防

共存

ジェンダー

## 何層にも重なる対立の中で共存の道をつくる

ソマリアでは 1991 年に発生した内戦の長期化、伝統的な氏族（クラン）間の争い、中央政府の統治力の欠如などにより、不安定な治安状況が続いています。特に深刻なのが頻発するテロの問題です。近年は史上最悪のペースでテロの被害が拡大しており、2017 年に首都モガディシュで発生した車両爆弾によるテロでは一度に 588 人が亡くなり、世界史上もっとも大きな被害が発生する大惨事になりました。ソマリアで発生するテロの大部分は、イスラム系武装勢力アル・シャバーブによるもので、アル・シャバーブは隣国ケニアでのテロにも関与しています。職のない若者や生活苦の子どもがテロ組織、ギャング、海賊に勧誘される問題も深刻化しています REALs は、今後ソマリアで取り組む活動について協力機関と協議を進めているところです。これまでに実施してきた活動の一部をご報告します。

## 若者にテロ以外の道を示す

テロ被害が深刻なソマリア南部で、若者がテロ組織に参加したり過激化せずに社会を変える担い手となるよう、人材育成と環境整備に取り組んでいます。UNIDO（国連工業開発機関）との連携事業では、UNIDO が若者への職業訓練と起業家支援を行い、REALs が暴力的過激化を防ぐための研修プログラムを策定し若者を指導員として育成したことで、若者たち自らがコミュニティの平和のために指導と行動を続

ける基盤ができました。



## 国内避難民の女性を、性被害を防ぐ取り組みの担い手に育成

ソマリア北部の国内避難民キャンプでは、避難中に性被害に遭ったり、キャンプ生活で男性から暴力を受ける女性の被害が深刻でした。REALs は、被害に遭った女性から相談を受け問題解決の担い手となる女性を、20 ヲ所の避難民キャンプで育成しました。これにより、レイプ被害の予防や家庭内暴力の調停が行える

ようになり、女性たちが考えた「女性の尊厳を守ろう」というメッセージを携帯電話を通じて地域全土に配信したことで、立ち上がる女性たちや協力する男性長老たちが増えるなどのジェンダー問題への認識・理解が広がりました。

## 避難民と住民の共存

争いや自然災害により多くの人々が避難生活を余儀なくされてきたソマリアでは、国内避難民、帰還した元難民、元々の住民の間で土地や資源をめぐる対立が起きやすくなっています。REALs は、集団間の対立を早期に解決し、集団間の信頼醸成の取り組みを立案・

実施できる人材を育成しています。異なる集団間の共通する利害を起点にした共存促進の取り組みも行っています。現在新たに計画している活動では、こうした共存の仕組みづくりを行うことを検討しています。

# トルコ

# Turkey

緊急支援

心のケア

## シリア難民支援

REALs は 2015 年からトルコでシリア難民支援を開始し、2016 年からは南部メルスィン県に事務所を置いて活動を続けています。シリアから逃れてきたばかりの時は、誰もがまず食糧や生活必需品など緊急支援物資を求めていましたが、避難生活の長期化によって一人ひとりの暮らしや経済状況に違いが生まれ、今必要な支援はそれぞれに異なっています。

そこで REALs は、対面や電話で話を聞く相談窓口を設けるとともに、難民の家庭を訪問して直接話を聞き、一人ひとりの困難や課題に対応するための支援を行っています。2018 年 6 月から今年 8 月末までに、11,443 人の相談に対応してきました。

相談窓口には、行政の支援を受けるための手続きに関する質問や、トルコ語が分からず病院に行けないといった毎日の暮らしでの問題、さらに生きていくことが辛いなど心の悩みに関する相談も寄せられています。REALs は弁護士による法律相談や、心理療法士による個別カウンセリングなどを提供しています。

これらに加えて、特に相談の多い、トルコの行政・



難民からの相談に電話で対応する REALs スタッフ。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、現在電話での相談が中心となっている

法制度の説明会や、難民の抱える大きな問題の一つである、家庭内暴力や児童婚などジェンダーに基づく暴力（GBV）について理解を深めてもらうための啓発イベントを定期的に開催しています。

※この活動は、皆様のご寄付を活用するとともにジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施しています。

## TOPICS

### 空爆下の暮らしで傷ついた心を支える

「この子を見ているのが辛く、どうしていいかわかりませんでした」

ヌールちゃん(女兒、6歳)のお母さんは振り返ります。

ヌールちゃんは、激しい空爆が続くシリアから、トルコに逃れてきました。

トルコに来てからも、ヌールちゃんは大きな物音や飛行機の音、大声などを耳にすると泣き出したり、恐怖で身体が震えたりしていました。そこで REALs の心理社会カウンセラーはお母さんに、ヌールちゃんが落ち着けるようないろいろなアドバイスをしまし

た。暴力的なシーンや大きな音が出るテレビ番組は見せないこと、夜も暗闇にならないよう小さな明かりをつけること、できるだけ身体を動かすようにすること、興味のあることや好きなことをして過ごさせること、相談や聞かれたことには必ず応じながら、できるだけヌールちゃん自身で答えを見つけられるように話をすることなどです。

その後、お母さんは、「ヌールが怖がったり震えたりすることが目に見えて少なくなりました。相談して本当によかった」と話してくれました。

## JCCPM 株式会社様から協賛金のご支援



JCCPM 株式会社様（東京都新宿区、代表取締役堺夏七子様）より今年 2 月、REALs の活動への協賛金として 109 万円のご支援を頂きました。

JCCPM 様は、開発途上国で事業を立ち上げる企業にコンサルティングサービスを提供し、これまで 28 カ国で企業支援を行っています。代表取締役の堺様は REALs の活動に賛同くださり、紛争などで傷ついた社会に平和を根付かせるためには、NGO の活動とあわせて、現地の経済発展を促し、企業と地域の人々がともに繁栄する社会を築くことが必要との理念で、2013 年に同社を設立されました。2014 年から継続的に頂いているご支援に、改めて御礼申し上げます。

### お知らせ

## REALs のホームページをリニューアルしました！



新 HP はこちら  
<https://reals.org>

REALs のホームページが新しくなりました。アドレスはこちらに変更となります <https://reals.org>

リニューアルにあたり、トップページのデザインや理念の言語化をはじめ、組織の新しいロゴなどを含むリブランディング全般について、株式会社ライトパブリシティ様（東京都中央区）にプロボノで多大なご協力を頂いています。

また、今回のニュースレター表紙写真も含む、ホームページ内の写真の一部は、カメラマンの千葉康由氏（AFP 通信）からご提供頂きました。千葉氏は、紛争地での取材に長年取り組まれるなかで、REALs の活動現場の人々の姿を撮影頂くなどご協力くださっています。2020 年 4 月には、世界報道写真展で大賞を受賞されています。

ご協力に改めてお礼申し上げます。

## 近衛忠輝顧問退任のお知らせ

1999 年の創設時より REALs の顧問を務めてきた近衛忠輝氏（日本赤十字社名誉社長）が、今年度総会をもって顧問を退任いたしました。長年にわたり人道支援の専門性に基づく多くの助言、指導を頂いたことを改めて感謝致します。

## 通常総会を行いました

第 38 回通常総会が 6 月 25 日に開催され、「令和元年度(2019 年)事業報告書」及び「令和元年度(2019 年)活動計算書」が承認されました。今回の総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン会議にて実施いたしました。2019 年はアフリカ 3 カ国とシリア危機を中心とする中東地域 2 カ国での活動に尽力しました。今年度も引き続き活動に努めて参ります。

### ご寄付のお願い

ご寄付はこちらから※**口座名義が変わりました**

#### ■郵便振替

口座記号番号：00100-8-425569

加入者名：特定非営利活動法人 Reach Alternatives

フリガナ：トクヒ）リーチ オルタナティブズ

■ホームページからクレジットカードでもご寄付いただけます。

#### ■銀行振込

三菱 UFJ 銀行 赤坂見附支店

口座番号：普通 1111380

口座名義：特定非営利活動法人 Reach Alternatives

フリガナ：トクヒ）リーチ オルタナティブズ

特定非営利活動法人 Reach Alternatives  
 〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1 三田村ビル 203  
 TEL:03-5579-8395 FAX:03-5579-8396  
[www.reals.org](http://www.reals.org)

〈2020 年秋号 発行人: 瀬谷ルミ子〉



REALs は認定 NPO 法人です。ご寄付は寄付金控除の対象になります



顧問	明石 康	元国連事務次長	
理事長	瀬谷ルミ子	JCCPM(株)	取締役
理事	植村高雄	(特活)CULL	
		カリタスカウンセリング学会会長	
	小川和久	静岡県立大学	特任教授
	宮下幸子	ユイット(株)	代表取締役
	永井恒男	アイディール・リーダーズ(株)	代表取締役
	中土井僚	オーセンティックワークス(株)	代表取締役
監事	柴田秀孝	(株)エムアールエス	顧問